

TREホールディングス株式会社（東証1部：9247）

2022年3月期

第3四半期決算 補足説明資料

2022年2月14日

© 2022 TREホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

目次

- 当第3四半期決算の概況【連結】 ... P3
- TREホールディングス
 - ✓ 設立の経緯
 - ✓ 会社概要
 - ✓ 資源サーキュラー事業スキーム
 - ✓ 事業内容
- 2022年3月期 第3四半期決算 ... P9
 - ✓ 市場環境
 - ✓ セグメント別売上高及び営業利益
 - ✓ 設備投資・減価償却費・従業員
 - ✓ 通期業績予想の修正及び株主配当について
- 中期経営計画 ... P15
 - ✓ 中期経営計画の進捗状況
 - ✓ 2021年4月～2021年12月の実績（セグメント別）
 - ✓ 統合シナジーの進捗状況
- TOPIX ... P19
 - ✓ (株)信州タケエイにおける太陽光パネルリサイクル事業の開始について
 - ✓ (株)門前クリーンパークの工事進捗報告
 - ✓ TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み
 - ✓ 「プラスチック資源循環促進法施行（2022年4月）」を見据えての事業スキーム構築検討を推進

当第3四半期決算の概況【連結】 <累計>

(単位：百万円)

	3Q累計実績	2022年3月期			
		通期業績予想			
		当初 (注1)		修正 (注2)	
			進捗率		進捗率
売上高	45,038	64,000	70.4%	67,400	66.8%
営業利益	5,143	5,700	90.2%	7,430	69.2%
経常利益	4,919	5,560	88.5%	7,220	68.1%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	3,018	3,300	91.5%	4,420	68.3%

※ 2021年10月1日付で共同持株会社として設立されました当社は、会計上、(株)タケエイが取得企業、リバーホールディングス(株)が被取得企業となります。従いまして、当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)の連結業績には、(株)タケエイの当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)の連結業績と、リバーホールディングス(株)の当第2四半期連結会計期間(2021年10月1日～2021年12月31日)の連結業績を連結したものととなります。

※ 当社設立後最初の決算となるため、前年同期及び前年度との対比は行っておりません。

注1：2021年10月1日に開示した当初の通期連結業績予想の数値。

注2：2022年2月14日に今回開示した通期連結業績予想の修正数値。

営業利益 51億円

業績好調により通期業績予想を上方修正 (詳細はP14をご覧ください)

TREホールディングス(株) 設立経緯

マクロ環境における課題

地球	地球温暖化 資源枯渇 廃プラスチック問題	日本	人口減少 市場縮小 インフラ老朽化	業界	非効率経営 低い信頼性 後継者問題
----	----------------------------	----	-------------------------	----	-------------------------

求められる社会ニーズ

高度循環型社会の実現

脱炭素社会の実現

そのために

地球環境に対する“想い”が一致する両社が結束し、共同で資本を投じることで効率性が加速
あらゆる経済資源を活かし合いシナジーを発揮することを目指し

2021年10月1日 (株)タケエイとリバーホールディングス(株)は、共同持株会社を設立しました。



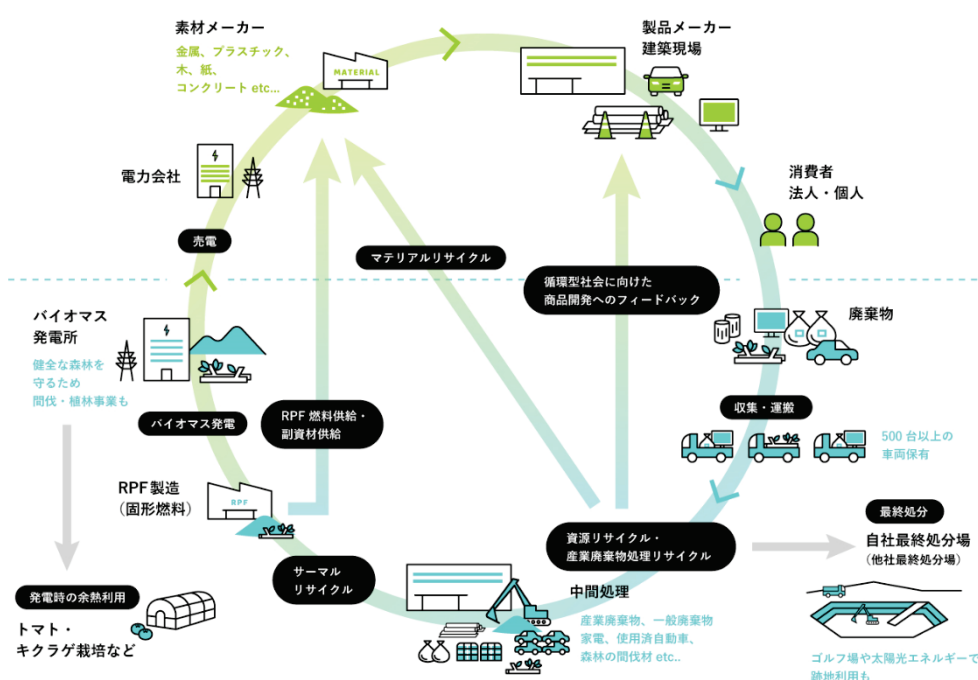
TREホールディングス株式会社

Try
↓
Technology
Recycling
Renewable Energy
↓
Earth Ecology

挑戦する
新たな技術開発
リサイクル事業の深化
エネルギー事業の推進
地球環境の保全

企業理念	地球の環境保全に貢献する。
設立	2021年10月1日
本社	東京都千代田区
代表取締役	代表取締役会長 松岡直人 / 代表取締役社長 阿部光男
資本金	100億円
従業員	連結：2,106名
グループ事業内容	廃棄物処理・再資源化事業、資源リサイクル事業、再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業
子会社等	子会社：39社 持分法適用関連会社：6社
グループ拠点数	60拠点 首都圏及び東北、北陸、甲信、関西他 / 海外(タイ)1拠点
グループ主要顧客	大手建設会社、ハウスメーカー、大手製鉄会社、商社等

2021年12月末時点



廃棄物処理・再資源化事業

資源リサイクル事業

廃棄物排出量が多く、再資源化製品、再生エネルギーに対する需要が旺盛な関東圏を核に事業展開しております。

最大級の処理能力、多くの拠点数、車両を駆使し、サーキュラーエコノミーの社会ニーズに的確な対応を図っております。

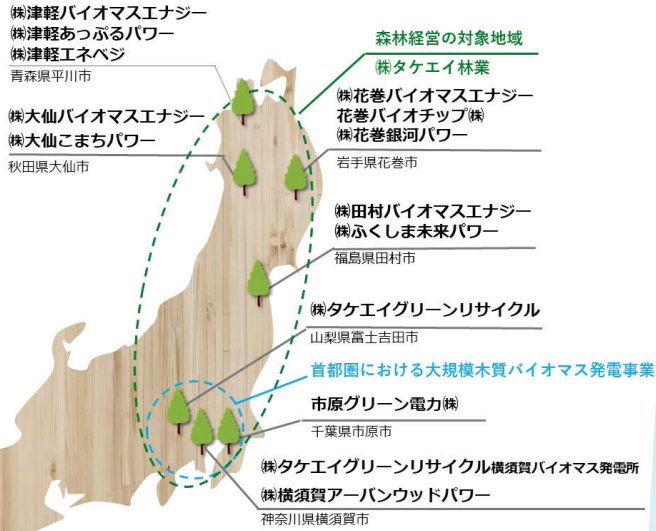
グループ取扱量 年間約 **200** 万t

中間処理・リサイクル施設 **60** カ所

車両保有台数 約 **500** 台

大型破砕機台数 関東圏 **6** 基

※大型破砕機とは、本体馬力が1,000馬力以上の破砕機を指します。



再生可能エネルギー事業

RPF：古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO2排出量が少ない。

東日本を中心に、東北の4ヶ所で、主に森林資源の内、未利用材の間伐材、伐採材を、関東圏2ヶ所では、解体材、一部RPFなどを燃料とする木質バイオマス発電所を運営しております。

また、森林経営（計画、段階伐採、植林）への取り組みを強化し、資源サーキュラーが可能な再生可能エネルギー事業の拡充を推進しております。

年間扱量 木質バイオマス 約60万t RPF 約5万t

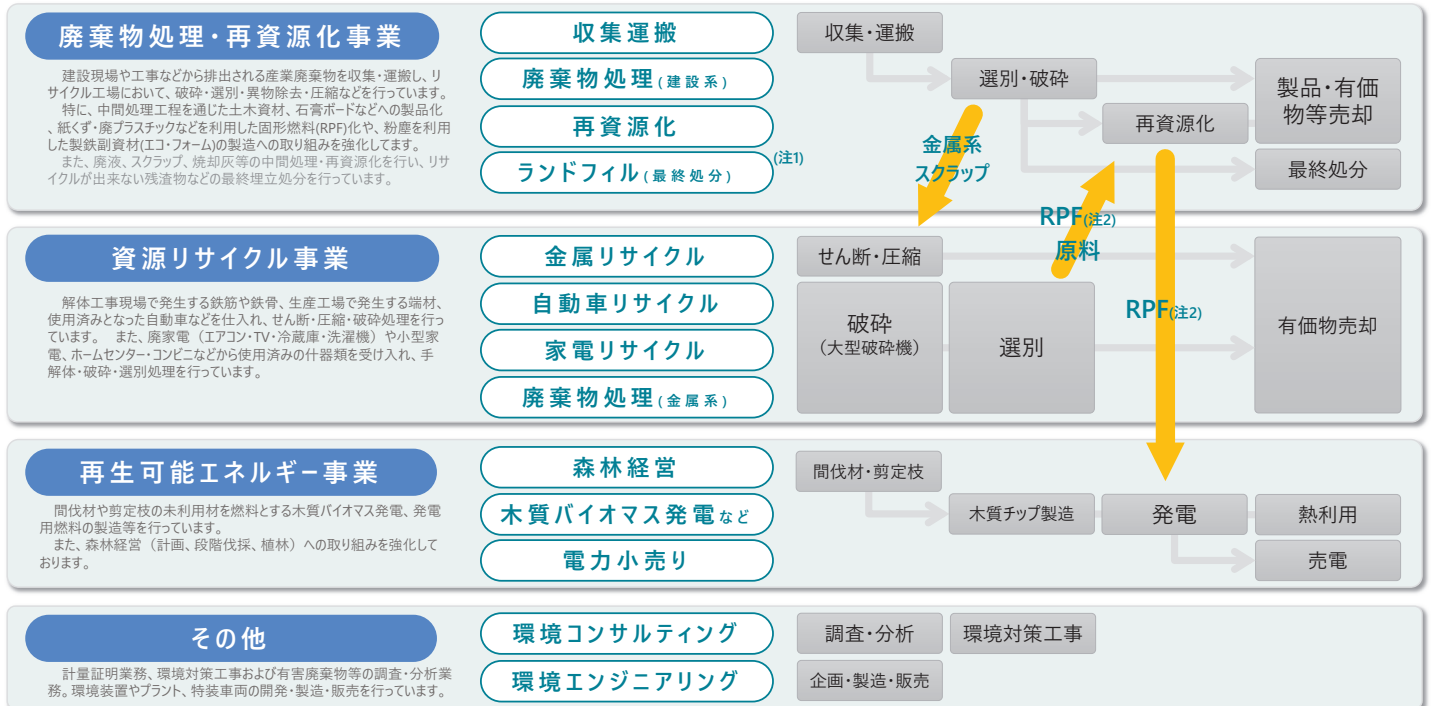
年間発電量 約661,320 MWh



出典：林野庁資料より

環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業

その他の事業セグメントとして、環境機器の企画・製造・販売を行う環境エンジニアリング事業、計量証明事業、環境対策工事及び有害廃棄物等の調査・分析業務を行う環境コンサルティング事業を推進しております。



注1：最終処分場の跡地を有効利用し、パークゴルフ場や太陽光発電事業の運営を行っています。
注2：RPFとは、古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO2排出量が少ない。

2022年3月期 第3四半期決算

市場環境

セグメント別売上高及び営業利益

設備投資・減価償却費

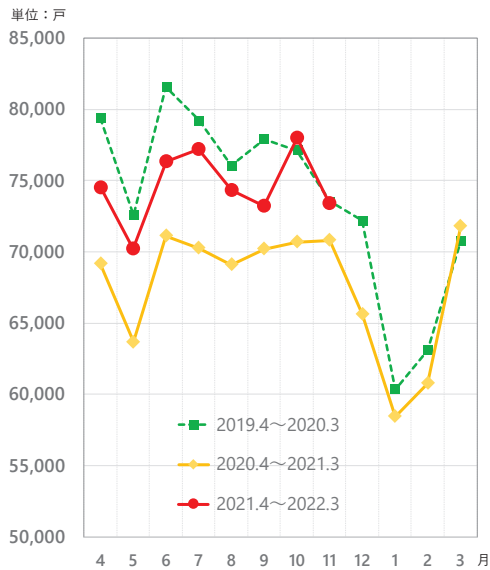
通期業績予想の修正及び株主配当について

当第3四半期決算



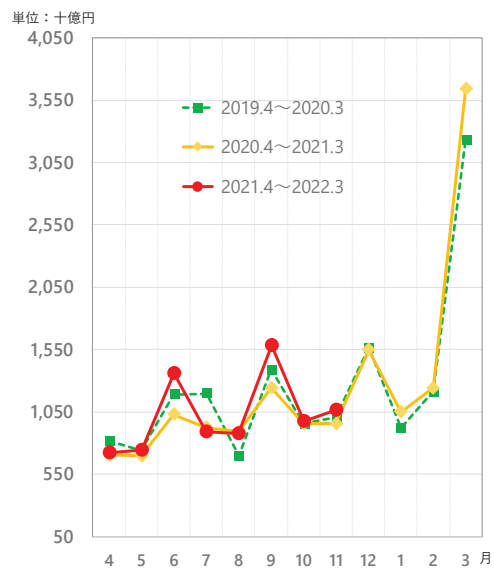
市場環境

■ 新設住宅着工戸数



コロナ禍の影響で住環境への関心が高まったことも手伝い、引き続き回復基調。

■ 建設工事受注高 (大手50社)

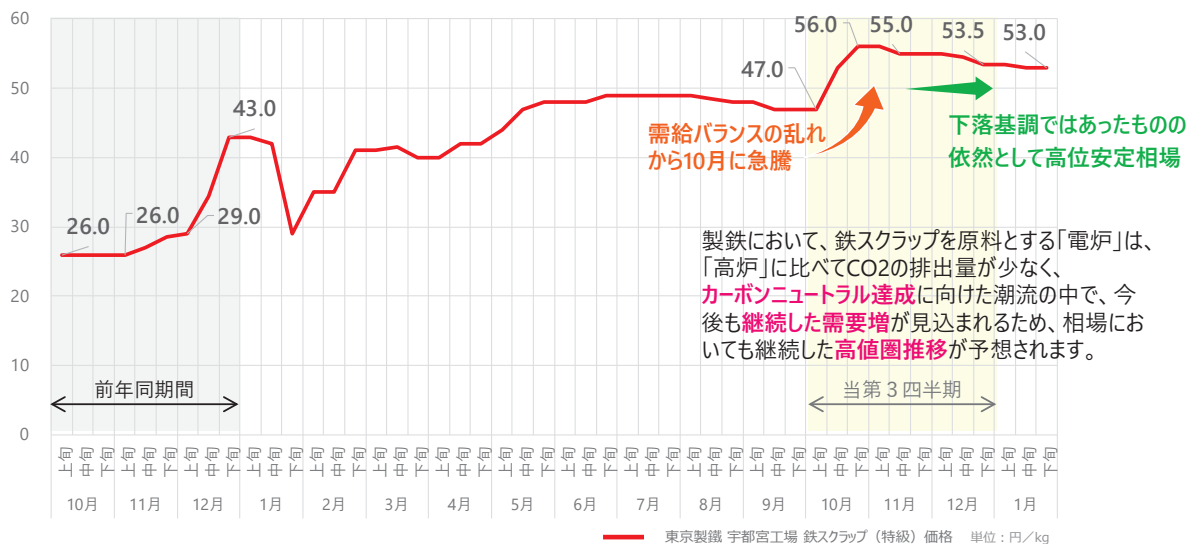


対前年同月比で3カ月(10月~12月)連続で増加するなど堅調な推移。

市場環境

■ 鉄スクラップ市況

2021年10月初めに47,000円/トン(東京製鐵(株)宇都宮工場特級価格)であった価格は、鉄スクラップ発生量の低迷と、鉄鋼メーカーの需要増が重なり、月末には56,000円/トンまで急騰しました。しかしながら、国内価格のみが急騰したことで、日本産鉄スクラップの独歩高を招くこととなり輸出需要は低迷。堅調な内需により大きく下落することはなかったものの、11月以降輸出(海外)価格との調整により緩やかな下落が続き、12月末に53,500円/トンとなりました。



製鉄において、鉄スクラップを原料とする「電炉」は、「高炉」に比べてCO2の排出量が少なく、カーボンニュートラル達成に向けた潮流の中で、今後も継続した需要増が見込まれるため、相場においても継続した高値圏推移が予想されます。

セグメント別売上高及び営業利益 <累計>

単位: 百万円

	2022年3月期 3Q累計実績		
	売上高	営業利益	営業利益率
連結	45,038	5,143	11.4%
廃棄物処理・再資源化事業 (注1)	18,868	3,830	20.3%
資源リサイクル事業 (注2)(注3)	12,277	1,452	11.8%
再生可能エネルギー事業 (注4)	9,461	-153	-
その他 (注1)(注5)	4,988	209	4.2%
調整額 (注6)	-558	-195	-

注1: 「収益認識に関する会計基準」等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。
 注2: 資源リサイクル事業は、経営統合における会計上被取得企業のリバーホールディングス連結業績について、2021年10月1日～2021年12月31日の3カ月間の実績となります。
 注3: 資源リサイクル事業には、経営統合に関連するのれん影響額45百万円が2021年10月1日～2021年12月31日の3カ月分が反映されております。
 注4: 再生可能エネルギー事業には、市原グリーン電力(株)等取得に伴うのれん影響額289百万円が反映されております。
 注5: その他は、「環境コンサルティング事業」、「環境エンジニアリング事業」を表します。
 注6: セグメント利益又は損失の調整額△195百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△203百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

廃棄物処理・再資源化事業

- 分選別強化等による有価物売上の増加。
- 搬出品の付加価値化、製品化が奏功。
- 石膏ボードリサイクル事業の搬入量の回復と原価低減効果。

資源リサイクル事業

- 資源相場の高値圏推移の継続により、廃棄物から加工・選別される金属類の売却益が増加。

再生可能エネルギー事業

- 臨時補修工事等の対応完了
- 安定稼働体制は定着傾向
- バイオマス比率の引き上げ等は来期反映。

設備投資・減価償却費

単位：百万円

	2022年3月期 3Q累計
設備投資	3,090
減価償却費	3,515

※ 資源リサイクル事業においては、リバーホールディングスの2021年10月1日～2021年12月31日の3カ月分が対象となります。

TREグループ新規投資の基本方針

- ・ サークュラーエコノミー実現に寄与するグループ各社の高度な選別技術や再資源化技術を実装する設備改善、新たな拠点確保のための設備投資を積極的に進めます。
- ・ 脱炭素社会により直接的に貢献するため、非化石燃料による再生可能エネルギー発電の増量のための設備投資、CCUS^(注1)も視野に入れたりサイクルスキーム構築のための研究開発を推進します。
- ・ グループの機動力（車両約500台）を活かすべく、適切な車両更新を継続の上、グループ会社間の広域ネットワークを土台として、DXによる統合配車システム等の情報システム開発を図ってまいります。

■ 主な設備投資

		2022年3月期	
		3Q累計実績	計画
(株)タケエイ	設備・車両更新、処分場拡大など	9.5億円	21億円
(株)門前クリーンパーク	処分場造成工事など	0.7億円	14億円
リバー(株)	電子廃棄物専用ライン新設	1.7億円	5.7億円
イコールゼロ(株)	設備・車両更新	1.1億円	3億円
(株)タケエイグリーンリサイクル	設備・車両更新	1.0億円	3億円
花巻バイオチップ(株)	中間処理設備設置など	0.6億円	3億円

注1：CCUSとは、CO2を分離・回収して、地中深くに圧入・貯留する技術「二酸化炭素回収・貯留(CCS)」と、回収したCO2を、燃料製造や化成品へ再利用する技術「二酸化炭素回収・有効利用(CCU)」の総称。

通期業績予想の修正及び株主配当について

主力事業好調により営業利益は計画比で1.3倍に上方修正

■ 通期業績予想の修正

単位：百万円

	2022年3月期			
	(当初)	(修正)		
			増減額	増減率
売上高	64,000	67,400	3,400	+5.3%
営業利益	5,700	7,430	1,730	+30.4%
経常利益	5,560	7,220	1,660	+29.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,300	4,420	1,120	+33.9%

※ 資源リサイクル事業においては、経営統合における会計上の被取得企業であるリバーホールディングス連結業績の半期分（2021年10月1日～2022年3月31日）の数値を反映しています。

※ 通期業績予想の売上高は100万円未満を四捨五入、その他利益項目は100万円未満を四捨五入しています。

中間処理施設における分選別強化により、有価物の回収量が増加したことや、搬出品の付加価値化、製品化なども奏功しました。加えて資源相場が高値水準で推移したことで、売上高及び営業利益は大きく増加しました。今後も業績好調を見込んでいることから、通期業績予想の上方修正を行い、株主様還元策としては増配を決議する運びとなりました。

■ 株主配当（1株当たり配当金）

(当初)	20.0円	→	25.0円
内訳	普通配当 15.0円 記念配当 5.0円		内訳 普通配当 20.0円 記念配当 5.0円

1株当たり配当金を5円増配し
通期配当予想を25.0円としました。

中期経営計画

中期経営計画の進捗状況

2021年4月～2021年12月の実績（セグメント別）

統合シナジーの進捗状況

中期経営計画



中期経営計画の進捗状況

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期			
	3Q累計 実績	3Q累計 実績	前期比	中計 1年目	通期見込 (注1) (注2)	中計 1年目 達成率
売上高	51,778	67,389	+30.1%	84,000	89,700	106.8%
営業利益	4,509	7,811	+73.2%	7,700	10,100	131.2%
営業利益率	8.7%	11.6%	+33.1%	9.2%	11.3%	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	3,176	5,524	+73.9%	5,050	6,930	137.2%
1株当たり 当期純利益				96.0円	131.7円	—

- 注1：経年比較のため、経営統合2社(株タケエイ、リバーHD(株))の集計期間を2021年4月～2022年3月通期で合算しております。そのため、2月14日開示業績予想とは、対象期間が相違しております。
- 注2：通期見込の営業利益には、本経営統合に関わるのれん(約0.9億円/半年)影響額を見込んでおります。
- 注3：一株当たり当期利益は、中期経営計画の実質的に進捗状況把握を容易とするため、中計目標数値と同じ基準で算出しております。具体的には、経営統合以前の株タケエイ、リバーHD株の実績は単純合算し、通期平均株数を、10月1日時点、発行済株式数52,610,712株としております。

**有価物の回収量の増加、搬出品の付加価値化・製品化が奏功。
加えて資源相場の高値水準が後押し。**

2021年4月～2021年12月の実績（セグメント別）

単位：百万円

		2021年4月～ 2021年6月	2021年7月～ 2021年9月	2021年10月～ 2021年12月	2021年4月～ 2021年12月
連結	売上高	21,522	21,904	23,961	67,389
	営業利益	2,227	2,615	2,968	7,811
	営業利益率	10.3%	11.9%	12.4%	11.6%
廃棄物処理・再資源化事業	売上高	6,012	6,211	6,644	18,868
	営業利益	1,020	1,214	1,596	3,830
	営業利益率	17.0%	19.5%	24.0%	20.3%
資源リサイクル事業 (注1)(注2)	売上高	11,293	11,057	12,277	34,628
	営業利益	1,293	1,373	1,452	4,120
	営業利益率	11.4%	12.4%	11.8%	11.9%
再生可能エネルギー事業 (注3)	売上高	3,089	2,976	3,395	9,461
	営業利益	-83	-61	-8	-153
	営業利益率	-	-	-	-
その他	売上高	1,365	1,808	1,814	4,988
	営業利益	-10	93	126	209
	営業利益率	-	5.1%	6.9%	4.2%
調整	売上高	-237	-148	-169	-558
	営業利益	7	-4	-198	-195

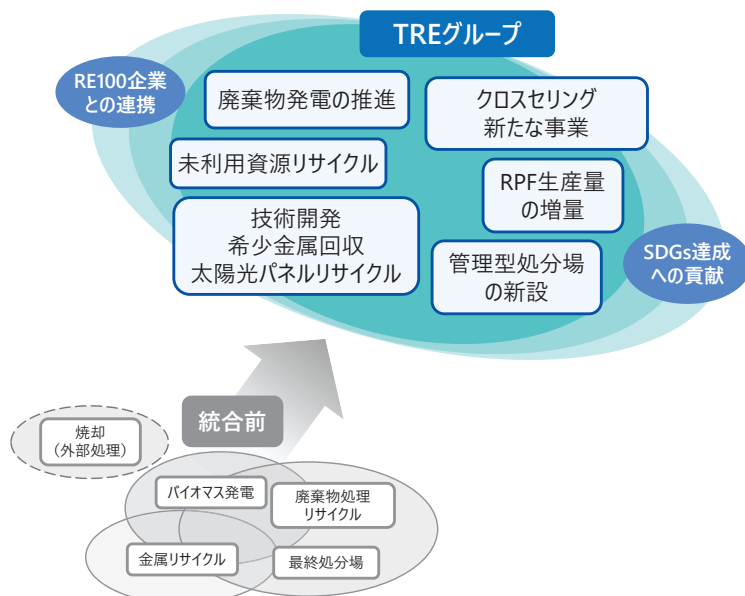
注1： 中期経営計画の実質的に進捗状況把握及び期間比較を容易とするため、資源リサイクル事業には、中計目標数値と同じ基準で、リバ-HD株の2021年4月～2021年9月の実績が含まれております。

注2： 資源リサイクル事業には、経営統合に関連するのれん影響額45百万円（3カ月分）が含まれております。

注3： 再生可能エネルギー事業には、市原グリーン電力㈱等取得に伴うのれん影響額289百万円が含まれております。

統合シナジーの進捗状況

■ 中期経営計画による売上高と営業利益の成長イメージ



リサイクル事業の拡充

- ・ クロスセリングによる販路開拓。
- ・ 設備改善の推進、高次選別拠点の検討。
- ・ 未利用資源の製品化、付加価値化（RPF、製鉄副資材等）。

エネルギー事業の推進

- ・ 地元共生型の森林経営事業への取り組み強化。
- ・ 自社電源も含めた再生可能電力供給量の拡大。
- ・ 首都圏における廃棄物サーマル利用施設の計画推進。

技術開発（ビジネスモデル構築）

- ・ 廃プラスチックリサイクルに向けた事業スキーム構築。
- ・ 技術開発を土台として新たなリサイクル事業計画の検討。

サステナビリティ経営

- ・ 温室効果ガス排出量の見える化、リスク対応シナリオ分析の推進。
- ・ 内部統制システムの着実な運用。

TOPIX

(株)信州タケエイにおける太陽光パネルリサイクル事業の開始について

(株)門前クリーンパークの工事進捗報告

TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み

「プラスチック資源循環促進法施行（2022年4月）」を見据えての事業スキーム構築検討を推進

TOPIX



(株)信州タケエイにおける太陽光パネルリサイクル事業の開始について

2009年に余剰電力買取制度が開始されて以降、太陽光発電の急速な拡大に伴って太陽光パネルの設置が増加し、交換や廃棄されるパネルが2030年頃から大量に発生すると見込まれています。廃太陽光パネルから有用な金属やガラス等を回収し、今後見込まれる排出量にも対応可能な能力を持つ処理施設はまだ少ないことから、(株)信州タケエイは処理方法の研究・開発等に取り組み、2022年1月より太陽光パネルリサイクル事業を開始しました。

なお、(株)タケエイ 相馬事業所（福島県相馬市）においても太陽光パネルリサイクル事業を検討しています。また、太陽光パネルの重量構成比60%以上を占めるガラスのリサイクルにもTREグループを挙げて取り組んでまいります。

廃太陽光パネルの中間処理

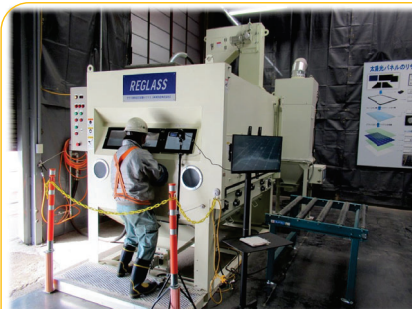
- ①端子やケーブル等を解体し、「油圧式フレーム外し機」にてアルミ枠を取り外す
- ②フレームを取り外したパネルを「手動式カバーガラス剥離装置」に投入してカバーガラスを剥離し、ガラスを回収する

(株)信州タケエイ（長野県諏訪市）	
設立	1972年1月 (2011年7月 (株)タケエイ100%子会社化)
資本金	91百万円



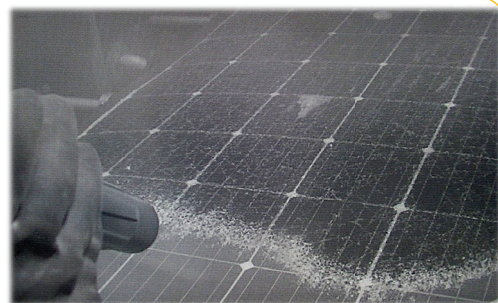
(株)信州タケエイ 諏訪リサイクルセンター「太陽館」

TREホールディングスが掲げる成長戦略の一つ「新たな技術開発、ビジネスモデル構築への挑戦」の象徴として、太陽のように光り輝く存在でありたいとの願いを込め、社員投票により命名。



手動式カバーガラス剥離装置

粒状の投射材料をガラス表面に噴きつけて剥離する。投射材料は装置内で循環し、連続使用が可能。剥離したガラスは自動的に分別・回収される。



ガラスを粉碎し、剥離する様子

自動車ガラスや住宅用ペアガラスの処理も可能。

株門前クリーンパークの工事進捗報告



2022年1月撮影



残土仮置場付近の造成

浸出水処理施設付近

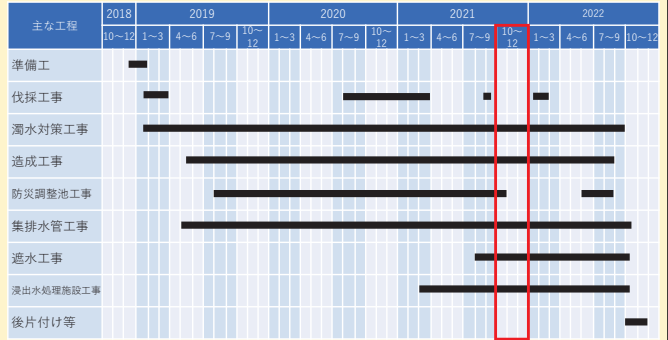
第1期埋立地付近の造成

	第1期	第2期	第3期	合計
埋立面積	5.16ha	8.46ha	5.75ha	17.26ha
埋立容量	83.6万m ³	173.1万m ³	86.4万m ³	343.1万m ³
埋立期間	11年7ヶ月	24年6ヶ月	11年9ヵ月	47年10ヶ月

(注) 第1期～第3期の埋立面積の合計は、重複部分があるため一致しません

○今後の工程

工事期間は概ね4年間で予定しており、今年度は、浸出水処理施設の築造や埋立地の造成工事が主な内容となります。



注：工程は予定であり、工事の進捗により変更されます。

引き続き環境などに配慮し、安全に工事を実施してまいります。
第1期工事は2022年11月に完了予定です。

TREのサーキュラーエコノミーへの取り組み

リバー(株)東松山事業所 電子廃棄物専用ライン新設



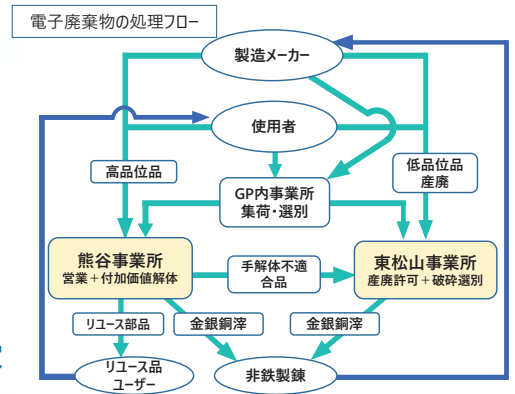
建屋完成

太陽光パネルを設置し、施設稼働に必要な使用電力の26%を再生可能エネルギーで賄います。

世界的な電子廃棄物の増加に伴い 電子廃棄物専用(破砕機)ラインの新設

中田屋(株)熊谷工場で実施しているATMなどの機密情報を含む電子機器類の手解体ラインと連携し、解体後の基板を破砕・異物除去するなど、付加価値向上に向けた取り組みを強化します。電子スクラップの破砕を行うことで、鉄・アルミを選別した後の「金銀銅滓」を国内大手製錬メーカーへ出荷します。

2022年4月稼働予定



NNY(株)那須事業所 樹脂選別ライン新設



設備搬入完了

プラスチックリサイクルの推進に向け 樹脂選別を強化するため専用選別ラインを新設。

現在、NNY(株)那須事業所において、ミックスメタル選別後に残るダスト(残渣物)の中から、樹脂などのマテリアルを年間 600t 選別して資源化につなげています。今後、新たに樹脂選別ラインを増設し、マテリアルリサイクル量を年間 1,800t まで増やし、より一層の資源化に貢献いたします。さらにRPFなどの代替燃料として活用できる燃料向けのダストも年間 420t 選別出来ると見込んでいます。

2022年7月稼働予定



ミックスメタル：アルミニウム、銅、ステンレス等の非鉄金属とプラスチックの混合物。

RPF：古紙及び廃プラスチック類を主原料とした固形燃料。高カロリーで、化石燃料と比較してCO₂排出量が少ない。

「プラスチック資源循環促進法施行（2022年4月）」を見据えての事業スキーム構築検討を推進

廃プラスチックの総排出量は年間約 **822万t**（一廃系410万 t、産廃系413万 t）。その内の**75%**にあたる **621万t** に対して高度リサイクルが望まれております。この内、509万t はサーマルリサイクルされているものの、残りの **112万t** が未利用のまま埋立や単純焼却されております。

（出処：一般社団法人 プラスチック循環利用協会「2020年 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」）

TREグループでは、現状、主に関東圏において約 **8万t** の産廃系廃プラスチックを扱っておりますが、その多くが未利用資源となっております。

当社グループは、大型設備やあらゆる選別装置を駆使すると共に、廃プラスチックリサイクルの幅広いサイクルニーズに対応するべく、高度な選別機能向上、高効率発電に向けた技術開発をすすめ、産学官との協業を視野にいれた新たな協業スキーム構築の検討を推進しております。

選別技術／工程開発の加速

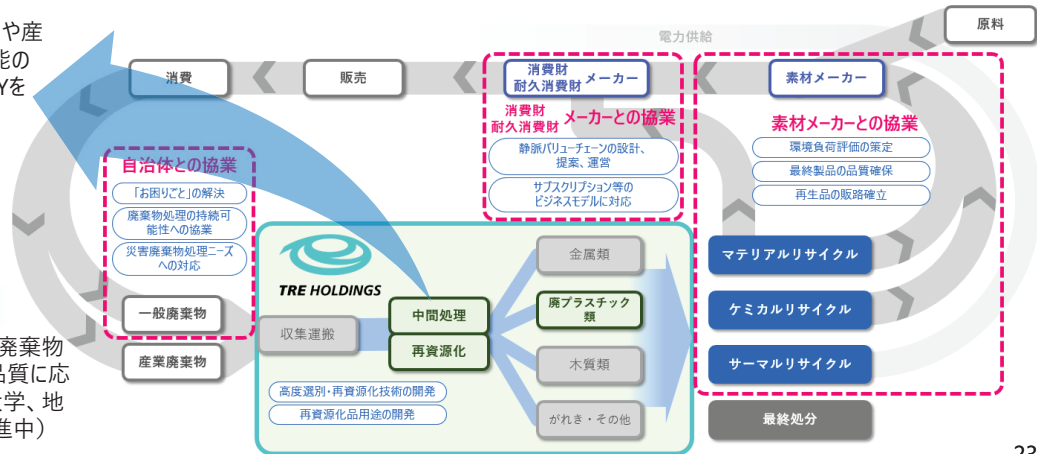
- 豊富な実証機会とエンジニアリング部門の協同や産学連携による技術開発によって、選別工程機能の強化を目指した設備構想の具体化。（株NNYを手始めに進行中）

出口戦略の最適化

- 動脈企業との協業を視野に、新たなリサイクル技術の実装に向け、需要家のニーズにマッチした製品提供を検討（複数商社、メーカーとNDAを締結の上、協議中）。

プラスチック資源循環の事業スキーム構築へ

- 広範な廃プラスチック資源循環に向けて、一般廃棄物の受入も視野に入れたりリサイクル拠点設置や品質に応じた最適リサイクル手法の適用を目指す（大学、地自治体、大手動脈企業等との意見交換を推進中）



免責事項

- 本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社および当社グループの将来の業績と異なる可能性があります。
- なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。
- また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



TRE HOLDINGS

未来へ、捨てない創造力を。